



医局だより

静岡県立静岡がんセンター 乳腺画像診断科兼生理検査科

中島 一彰



静岡がんセンターは静岡県東部、富士山の南東に位置する静岡県のがん診療連携拠点病院です。天気の良い日は四季折々の美しい富士山を間近に眺めることができます。乳腺外科、女性内科、乳腺画像診断科、再建・形成外科の医師、看護師、薬剤師、その他多職種のスタッフで力を合わせて日々乳がん診療に邁進しております。乳腺外科医は5名で年間400例超の乳がん手術を行っています。

乳腺画像診断科は私と植松孝悦部長の放射線診断医ふたりだけの診療科ですので、いつもの会報とは角度の違う医局だよりになりますが、少しお付き合いください。日本で乳腺領域を専門とする画像診断医は多くないですが、さらにそれを科名に冠しているのはここだけです。ア



ンケートにうっかり科名を記入すると誰が書いたかすぐにはれてしまうので注意が必要です。日常診療では、マンモグラフィやMRIをはじめとした乳腺領域の画像診断全般と、その他全身の画像診断、外来診察、針生検（USガイド下、トモシンセシスガイド下）などを行っています。

医局だより

乳がんの画像診断から針生検までの一連の流れをすべて担当するという点では米国のbreast radiologistに近い役割といえます。

外来では主に他院から紹介された方や、他科の検査中に偶発的に乳腺病変が見つかった方などの初診から画像診断、針生検で組織診断がつくまでを担当します。すでに前医で乳がんと診断されて乳腺外科を受診した患者も、副病変やリンパ節に対する生検は当科で行いますので、針生検を担当する病変は2人で年間800超にのぼります。生検時は準備や手技で多少身体を動かすからまだよいのですが、長時間座りっぱなしでの読影業務は心血管疾患の発症リスクを上昇させることが放射線科領域では問題となっていますので、電動昇降式デスクを使用して立ったり座ったりしながら読影をしています。お手頃価格で機能的な商品がありますので、マンモグラフィを長時間読影するような方には使用をおすすめします。乳腺外科を中心に多職種のメンバーで毎週行われるカンファレンスと術前カンファレンスでは、主に画像や生検に関して必要に応じてコメントさせていただいています。数年前に乳腺専門医試験で一気に詰め込んだ知識は覚えたのとはほぼ同じ速度で抜け落ちていき、しかも乳がんの治療法は日進月歩ですので、臨床で問題となっていることや乳がんに関する新しい話題を

カンファレンスで耳学問できる時間は私にとって大変貴重です。

画像診断と研究・教育によって進行乳がんが苦しむ患者を減らすことが私個人のミッションなのですが、どうしてもこんなになるまで放っておく、と言いたくなる進行乳がんはなかなか減りません。大きな腫瘍にも関わらず気づかなかった、怖くて病院に来られなかった、その他、本人の性格や仕事・家庭の事情、地域の検診や医療体制、最近ではCOVID-19など様々な理由があるにしても、検査を受けてくれないことには画像診断がどんなに進歩しても意味がありませんので、まずは情報発信、ブレスト・アウェアネスの普及に力を入れる必要性を強く感じるこの頃です。当院の乳がん診療の一端を担う科として地域と連携しつつ、診療や研究の成果を全国に発信できるように努力していきたいと思っておりますので、今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。静岡がんセンター乳腺外科、乳腺画像診断科では理想の乳がん診療に向かって一緒に楽しく仕事ができる方を随時募集しています。見学や短期研修プログラムも準備していますので、ちょっとだけ覗いてみたい、数日間勉強してみたいという方も大歓迎です。興味のある方はぜひご連絡ください。



乳腺外科の田所先生は東京オリンピックの聖火ランナーを務めました